

長野県須坂創成高等学校 令和3年度学校評価・学校関係者評価表

*評価の基準 A 十分に達成された B ある程度達成された C まだ不十分であるので来年に期待する （各評価の観点について左記のA～Cのいずれかで評価する）

学校教育目標				重点目標（中・長期的目標）		総合評価		評価A	評価B	評価C	ご意見・ご提言
1 産業構造の変化に柔軟に対応し、職業人として必要とされる専門力と創造力を兼ね備えた地域産業の担い手を育成する。 2 生徒一人ひとりが輝く「明るい学園」を創造し、思いやりの心を大切にするひとづくりを通し、社会に貢献できる人材を育成する。	①総合技術高校としての特色を生かし、農工商の枠を超えたより広い専門性と柔軟な実践力を養成する。 ②地域に根ざした信頼される学校づくりをすすめ、地域社会を担う人材を育成する。 ③自らに誇りを持ち、ルールやマナーを大切にす る誠実で品格ある人間を育成する。			新型コロナウイルスへの対応に追われた年であった。特に8月末から9月中旬、1月中旬から2月末の授業短縮や分散登校・部活動の中止は生徒にとっては様々な活動が制限され残念であった。そのような年ではあったが、社会の感染状況を確認し、工夫を凝らし学習活動や各種行事に取り組んできた。また、ICTを活用した取り組みも進んだ。本校の教育活動の重要な行事である創成フェアや課題研究発表会は、コロナ禍への対応を考えながら満足のいく成果を上げることができた。しかし、本校の教育活動の中心的部分でもある地域との交流が、昨年同様に大幅に減少してしまった。新課程となる来年度はコロナ禍の終息に期待し、より一層学科連携を深めながら総合技術高校としての発展を目指していきたい。		5	2		・ 新型コロナのため多くの活動が制限されたと思いますが次年度以降の活動に期待します。反省点もあると思うので今後に生かして欲しい。		
	今年度の重点目標			自己評価	成果と課題、改善策・向上策	評価A	評価B	評価C	ご意見・ご提言		
	①学科を超えた交流の促進・・・総合技術高校の特色を生かし、学科間共通履修の「産業基礎」及び学科間連携科目の学習を行い専門教育を充実させる。課題研究発表や学校行事、クラブ活動等を通して、校内の活性化を図る。			B	学科連携科目を学ぶことで自己の学科の専門性をより深めていくように取り組んだ。新教育課程への移行に伴い、今までの取り組みを生かしながら、さらなる学科連携の充実を図っていくことが総合技術高校として重要だと考える。これまでの積み重ねをもとに新教育課程における学科連携科目の内容を研究し、3年次における各学科の課題研究において成果となって現れるような取り組みが今後一層求められる。	5	2		・ 共同での取り組みが成果を出している。		
	②あいさつの励行・・・地域に信頼される学校を目指し、コミュニケーション力を育成する。			B	本来であれば地域との交流活動に積極的に参加したり、学習の成果を外部に発信して行くなかで、生徒が成長し自己肯定感を高めていくことができるのだが、そのような場が本年度も限られてしまい残念であった。	4	3				
	③希望する進路実現・・・基礎学力の定着、専門性をもった体験的・実践的学習と共に、キャリア教育を推進する。			A	進路指導室を中心に2年次後半より進路実現に向けた指導を行った。コロナ禍によりオープンキャンパスはじめ様々なことが変化していく中、係を中心に進学先や就職先と綿密な連絡を取り、生徒の進路実現に向けて指導・支援を行った結果、多くの生徒が満足いく結果を得ることができた。一方で就業体験を思うように実施することができず、キャリア教育の推進には今年も苦しい一年となった。	6	1		・ 早め早めの対応で生徒にあった進路が実現できている。		
	④転退学者の減少・・・ルールやマナーの遵守、他者を思いやる人権意識の涵養、いじめのない学校づくりを推進する。			B	担任と係との連携、スクールソーシャルワーカーといった外部機関との連携を行い、転退学者の減少に努めた。いじめ事案に対しては防止対策委員会を中心に組織的な対応に心掛けた。相談力向上事業（CAP）やSOSの出し方教育、アセス等生徒への支援体制の取り組みが推進した。	3	4		・ いじめをなくすことは難しいと思いますが、様々な活動を通して多くの生徒が主役になれるような取り組みをお願いします。		
領域	対象	評価項目		該当学年	評価の観点	成果と課題、改善策・向上策	評価A	評価B	評価C	ご意見・ご提言	
教育活動	教育課程	①	産業基礎	1	産業人としての基礎力を養成するための授業が実施できたか。地域産業の理解をすすめることができたか。	A	コロナ禍で外部講師の活用等、計画通り実施することができなかったが、地域産業理解のきっかけづくりと、専門学習へのモチベーションを向上させることができた。今後も総合技術高校の特色科目として、教育内容の充実を図りたい。	6	1		・ コロナ禍で工夫した対応ができた。
		②	コース選択	2・3	コース選択に対する適切な指導ができたか。	A	コース説明会と4回のコース体験および面談を通して、丁寧なコース選択を進めることができた。感染症対策のため、保護者向けの動画配信で説明会を実施した。（農）工業技術基礎の学習からコースの特色を理解させ、生徒及び保護者への説明会を実施した。きめ細かな指導ができた。（工）生徒にコース選択に関する説明会を実施し、各コースの内容や取得できる資格等を理解させ、納得して選択させることができた。いずれのコースも社会で活躍するための知識・技術を習得することができた。（商）	6	2		
		③	学科連携	2・3	他学科の生徒の学習に資するシラバスが作成され実施できたか。	B	2年次の学科連携科目では、他学科の学習に資するシラバス作成がなされている。次年度入学生からは新たな科目展開となるため、さらに専門性の深化につなげられるような授業計画の検討が必要である。3年次の進路別選択科目では、他学科の生徒の専門性を強化補強するためのシラバス作成に努めた。	3	4		
	学習指導	④	基礎学力の充実	全	学力補充が計画され、実施できたか。	B	各教科で補習や追試などの学力補充がおこなわれた。	3	4		
				全	家庭学習の時間をもつための取組みができたか。	B	臨時休業中も含め各教科で課題などの家庭学習に向けた取り組みがおこなわれた。	4	3		・ 臨時休校の対応など苦労が多かったと思います。
		⑤	授業方法の工夫・改善	全	言語活動の充実を図るための実践ができたか。	B	全校で朝読書を実施した。また、各教科やコース学習での図書館利用も多く、必要に応じて資料提供やオリエンテーションを行った。	4	3		
	生徒指導	⑥	日常的な生徒指導	全	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上に取り組めたか。	B	コロナの影響で分散登校等があり、生活習慣を保つことが難しい年度であったが多くの生徒は落ち着いた学校生活を過ごせた。毎日の立ち番指導が一定の抑止力になっているが、2学期後半から遅刻者が増加した。	4	3		・ コロナで様々な常識が変わる中で変わらないものもあることを教えることは大切だと思います。
				全	校則を守った身だしなみ指導ができたか。	B	校風委員の意見や生徒の現状を踏まえ、制服の規定を改定した。次年度は性的マイノリティ等にも配慮した制服の在り方を本格的に検討していきたい。規定違反の生徒には改善が図られるよう、その場での注意を行うとともに家庭の協力のもと継続的に指導していく。	4	3		・ 交通事故が多くなったことが気になります。これまで以上の指導の徹底が必要と感じます。
		⑦	いじめの未然防止	全	いじめの未然防止に努めることができたか。	B	年3回のアンケートを行い、いじめ抑止や早期発見に努めた。情報は全職員で共有し担任・学年を中心に指導・支援を行った。解決までに時間がかかる事案もあるため、CAPプログラムや生徒指導通信等の啓発活動を通して未然防止に努めたい。	3	4		
		⑧	教育相談体制	全	校内の教育相談体制がうまく機能したか。	B	問題行動事案に対し相談係と連携して指導と支援を行った。また定例の生徒指導係会にも参加することで、情報共有が進み生徒理解を深めることができた。次年度も連携を継続していく。	5	2		
		⑨	家庭との連携	全	家庭との連絡を密にし、生徒指導に生かすことができたか。	A	普段から各担任らがこまめな家庭連絡を行っており、保護者とともに問題行動事案に対応することができた。	6	1		

	進路指導	⑩	進路情報の提供	全	進路情報の提供が適切になされ、生徒の進路意識を高めることができたか。	A	進路通信を発行し、進路に関する情報を生徒に提供し、進路意識を高めた。	6	1		
		⑪	キャリア教育の充実	全	将来を見据えたキャリア教育とインターンシップを積極的に推し進められたか。	B	コロナ禍により就業体験を実施するのは厳しい状況であるが、2年生を対象に3月実施を模索している。	3	4		
	学校行事	⑫	学校行事の運営	全	創成フェア、課題研究発表会が各学科において意義ある行事となったか。	B	保護者のみの公開となったが、各学科で展示・販売・実演等を通して、学びを深めることができた。また、全体でテーマ（SDGs）への理解を深めることができた。今後は他学科の学びを知ること、自己の学びをより深め、総合技術高校ならではの行事として発展させていくことが望まれる。	3	4		
	生徒会活動	⑬	生徒会情事の活性化	全	完全統合し生徒会役員が広い視野を持って様々な活動を企画・運営し、個々の生徒が参加、活躍できるような場を提供できたか。	A	3年執行部を中心に自主的活動ができた。コロナ禍の文化祭では、リモートも取り入れ行うことができた。	7			
	クラブ活動	⑭	クラブ活動の活性化	全	運動系クラブの練習が円滑に行えたか。	A	コロナ禍の制約がある中で活発な活動ができた。新人大会では多くのクラブが県大会に出場した。	7			・コロナで活動が制約される中、成果が上がっていると思います。
				全	文化系・専門系クラブ活動が充実、活性化したか。	A	各種コンクール、総合文化祭に出場した。創成祭、創成フェアにおいて発表を行うことができた。	7			・コロナで活動が制約される中、成果が上がっていると思います。
学校運営	地域との連携	⑮	中学生に対するPR	全	体験入学等の機会を通じて中学生を広く集め、本校に対する理解を深めることができたか。	A	例年を上回る生徒、保護者に参加して頂き、授業及び学校に施設などを見学していただくことが出来た。	6	1		・入学者の増加につながっていると思われる。
		⑯	地域への広報活動	全	公式Webサイトや広報紙を利用して本校の活動を適切に情報発信できたか。	A	新型コロナウイルス感染症拡大による役員会が中止になってしまい残念であった。（PTA）進路状況など、タイムラグなく発信することが出来た。	6	1		
		⑰	生徒の校外活動の充実	全	地域との連携による生徒の自主活動ができたか。	B	コロナ禍のため地域との交流の場は減ってしまったが、今後も積極的に地域の方々と関わっていきたい。	3	4		
	運組 営 織	⑱	総合技術高校の運営	全	3学科を備えた総合技術高校としての学校運営が適切になされたか。	B	コロナ禍で従来通りの運営ができなかったが、創成フェアでの農工商連携や、課題研究では各科代表発表の資料作成及び生徒に伝える工夫など、実施方法等を変更し進めることができた。今後も総合技術高校の強みを生かした運営を推進していきたい。	4	3		・さらに改善できると良い。
	研 校 修 内	⑲	特別支援教育等に関する事例研修	全	事例研修に基づく共通理解を持ち、実践につなげることができたか。	B	LGBTQIに関する基礎知識を得ることができた。発達障がい、学習障がいについて職員の共通理解を図ることができた。全校対象に人権教育講演会を実施した。須坂市の人権標語に応募し、優秀賞を受賞した。	3	4		